

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	個別番号	性別	年齢	日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No.	備考
1	B-05023886	男性	6月	30mg	ブランルカスト水和物	痙攣	軽快	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビルを6日間服用した翌日、痙攣発作が見られた。44日後にけいれん重症発作が軽快した。	異常以外-1	
2	B-07000002	男性	6月	不明		痙攣	軽快	インフルエンザ検査は陰性であったが、リン酸オセルタミビルを処方。痙攣が起きたため、入院。	異常以外-2	
3	B-07000270	女性	10月	18mg		痙攣 発育遅延	回復 不明	インフルエンザワクチン接種後、感冒様症状出現。ワクチン接種翌日、感冒様症状は軽快。ワクチン接種4日後、再び感冒様症状あり。迅速検査でインフルエンザ陰性。対症療法薬剤を1~2回服用。再度、感冒様症状発現から2日後、38.6℃発熱。リン酸オセルタミビルを服用。本剤服用約20分後、脱力、意識消失、チアノーゼ、痙攣を生じた。本剤服用45分後頃、病院にて間代性けいれん、意識障害に対しジアゼパムを投与。10分後、痙攣が止まる。約90分後、意識清明、神経学的異常なし。その後は服用なし。5日後、下肢機能不良。発達障害あり。	異常以外-3	
4	B-05005388	男性	11月	33mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸アンプロキソール d-マレイン酸クロルフェニラミン 塩酸プロカテロール アセトアミノフェン	脳症(急性脳症) 肺水腫(肺水腫) 心停止(心停止)	後遺症	感冒様症状有り、受診しインフルエンザと診断。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。2日後、覚醒した後、四肢脱力・呼吸停止となり、救急搬送される。急性脳症と診断され処置をとる。翌日肺水腫は消失。その後、人工呼吸器離脱し、リハビリ開始となる。寝たきりの状態となり、外来で通院加療となる。	異常以外-4	
5	B-05016248	女性	11月	36mg	カルボシステイン d-マレイン酸クロルフェニラミン	ヘモフィリス菌 性髄膜炎(イン フルエンザ桿 菌による細菌 性髄膜炎) 硬膜下ヒゲ ローマ(硬膜下 水腫)	未回復	B型インフルエンザ発症。治療目的にリン酸オセルタミビル投与。本剤投与終了後、1ヶ月後にインフルエンザ桿菌による細菌性髄膜炎発現。けいれん嘔吐のため救急搬送される。本剤投与終了後約1.5月後、硬膜下水腫発現。細菌性髄膜炎は軽快したが、硬膜下水腫は未だ回復せず。現在入院中。	異常以外-5	
6	B-07001805	男性	11月	35mg	アセトアミノフェン ジアゼパム リン酸ジメメルファン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン	痙攣	回復	午後より発熱、けいれんを2回程発症。その後、インフルエンザA型治療のためリン酸オセルタミビル処方。1回目服用後もけいれんを認める。38.8℃。服用2日目、入院。服用3日目、夜、発熱は続き、数秒~10数秒のけいれんが頻発。	異常以外-6	
7	B-03003223	男性	1歳	不明	塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン	意識レベルの 低下 不機嫌	軽快	A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビル服用開始。本剤服用のたびに不機嫌、意識もうろ等の症状出現。症状発現後しばらく経過観察していると症状消失していたらしい。翌日夜に発熱、咳嗽も続いたため急患受診し本剤中止し入院。その後症状の出現なし。	異常以外-7	
8	B-03003783	女性	1歳	40mg	ロキタマイシン カルボシステイン 臭化水素酸フェネテロール 塩酸シプロヘプタジン	痙攣	軽快	インフルエンザB型と診断、リン酸オセルタミビル40mg/日を処方。5日目朝の服用後、投与終了。翌朝、意識なく、両手をびくびくさせたり、眼球上転し全身強直など、痙攣が何度か続く。他剤投薬により、午後になって意識清明。同日入院し、後遺症なし。4日後には痙攣重症回復。	異常以外-8	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
9	B-04026211	男性	1歳	不明	なし	幻視	回復	B型インフルエンザ治療のため、投与量不明のリン酸オセルタミビルを服用。投与開始後3日目に、幻視及び不機嫌(軽微)の有害事象発現、入院。本剤中止後5日後に回復。	異常以外-9	
10	B-04026477	男性	1歳	40mg	カルボシステイン 塩酸シプロヘパタジン	傾眠	回復	B型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル40mg/日を3日間服用。投与開始後4日目、活気がなくなり、傾眠傾向がみられた(けいれんはなし)。8日目、発熱及び傾眠傾向が観察されるため、入院。11日目、回復。	異常以外-10	
11	B-05024607	男性	1歳	36mg	ヒベンズ酸チペピジン 塩酸アンプロキソール 塩酸シプロヘパタジン ツロプテロール アセトアミノフェン	痙攣	回復	インフルエンザ確定診断でインフルエンザウイルスが検出されなかったものの、姉がA型インフルエンザに感染していたことと発熱が見られたことからリン酸オセルタミビルの投与開始。投与開始から約7時間後に下肢伸展の強直性痙攣が約1分半見られた。投与開始から3日目の早朝にも痙攣が見られ、リン酸オセルタミビルの投与を中止。その後、痙攣も回復。	異常以外-11	
12	B-06023781		1歳	不明	不明	痙攣	不明	本剤服用後、痙攣を起こした。詳細不明(担当医の協力が得られなかった)。	異常以外-12	
13	B-07002190	女性	1歳	180mg		嘔吐 傾眠	軽快 軽快	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル5日分処方するも、同日夕、5日分を1回ですべて服用。服用1時間後、嘔吐発現(数回)。嘔吐発現から1時間後、傾眠発現。救急外来受診。胃洗浄、輸液。入院。その4日後、嘔吐、傾眠軽快。	異常以外-13	
14	B-07003243	男性	1歳	114 mg		痙攣	回復	A型インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤服用後10分以内に、全身性痙攣発現し、同日回復。	異常以外-14	
15	B-07003702	男性	1歳	22.5mg		痙攣	軽快	インフルエンザ迅速検査陰性であったが、インフルエンザ罹患の可能性も考え、リン酸オセルタミビル処方。また急性中耳炎治療後でもあり、滲出性中耳炎化も考慮し、抗菌薬等処方。投与開始2日目、本剤2回目服用後、突然痙攣が始まり、緊急入院。なお、家族が本剤以外の併用薬は服用させていなかった。	異常以外-15	
16	B-07027256	男性	1歳	18mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。帰宅後すぐ服用。1回目の服用後に症状(暴れる)が発現。暴れて手がつけられなかった。同日2回目の服用中止。服用4日目、本剤服用終了。		2007/10/1以降 新規報告
17	B-02001935	男性	2歳	75mg	葛根湯 アモキシシリン 桂麻各半湯 アジスロマイシン リン酸ジヒドロコデイン/dl-塩酸メ チルエフェドリン/マレイン酸クロ ルフェニラミン デキサメタゾン	幻覚	回復	発熱により受診し、インフルエンザと診断されリン酸オセルタミビル75mgを分割投与(1日)。深夜、訳のわからないことを1時間程言い続ける。投与1日後、50mgへ減量し、継続投与したが、幻覚症状なし。投与開始3日後、解熱。投与開始5日後に投与中止。	異常以外-16	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
18	B-05023795	女性	2歳	22.5mg		幻覚 落ち着きのなさ	軽快 軽快	発熱(39.1℃)のため医療機関を受診し、その後リン酸オセルタミビルを服用。約3時間後に幻覚と不穏が発生し、4時間継続した。翌日の朝も発熱(39.5℃)していたものの、午前10時頃には37.5℃に解熱していた。その後、リン酸オセルタミビルを服用し、約1時間後に幻覚が発生し、約2時間で幻覚が消失した。	異常以外-17	
19	B-05025795	男性	2歳	50mg	ジアゼパム	浮動性めまい	回復	発熱し全身性痙攣があったため近医受診、A型インフルエンザ治療のためリン酸オセルタミビルを夕方より服用開始(嘔吐、下痢有り、発熱39℃)。翌日再度痙攣がありジアゼパム坐剤投与。本剤服用3日目解熱(37.2℃)したが、歩行時のふらつき出現。その翌日も歩行時のふらつき改善しないため入院。入院3日目歩行時のふらつき消失。朝、本剤服用終了。翌日インフルエンザ軽快し退院。	異常以外-18	
20	B-07001353	女性	2歳	22 mg	耐性乳酸菌製剤(2) ロートエキス散 塩化リゾチーム 塩酸シプロヘプタジン	異常行動 筋力低下	回復 回復	インフルエンザB型と診断され、リン酸オセルタミビル処方。同日昼食後に本剤内服し、程なく立って歩こうとするが、フラフラしてすぐに転ぶといった両下肢脱力、大声で叫ぶ症状が発現。熱は38~39℃。異常行動は覚醒時に発現の様子。同日夕方、これら2症状は消失し回復。その後、本剤中止。	異常以外-20	
21	B-07003012	男性	2歳	114 mg		痙攣	回復	B型インフルエンザの診断のもと、リン酸オセルタミビル処方。夜、本剤服用。深夜、本剤服用2時間後より、興奮状態、けいれん発現。目は半開き、ポーツとした状態(意識はある様子)。翌朝、39.3℃で、痰がらみの咳、鼻汁、かすれ声、咽頭発赤(軽度)あり。	異常以外-21	2007/10/1以降追加報告
22	B-07010107	女性	2歳	42mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。夕方より本剤服用開始。夜、異常行動(夜中暴れる)発現。服用4日目、本剤終了。服用開始から6日目、異常行動回復。	異常以外-22	
23	B-07027920	男性	2歳	60 mg	クラリスロマイシン カルボシステイン 塩酸シプロヘプタジン アセトアミノフェン	異常行動	回復	インフルエンザA型に対して、リン酸オセルタミビル処方。同日、寝ていると思ったらびくびくして突然飛び上がった、怖がったり震えたりした。服薬2日目、その後も服用続けたが、そのような症状は出現せず。		2007/10/1以降新規報告
24	B-02000900	男性	3歳	37.5mg	塩酸ツロブテロール クロモグリク酸ナトリウム 塩酸プロカテロール テオフィリン ヒベンズ酸チベピジン d-マレイン酸クロルフェニラミン	感覚鈍麻 意識レベルの低下	回復	約5ヶ月前より気管支喘息発症し、クロモグリク酸ナトリウム、塩酸プロカテロール、テオフィリンの服用歴あり。リン酸オセルタミビル服用後まもなく、手の震え、ポーツとした感じあり。処方中止し、他剤に変更。本剤服用後、24時間以内に症状消失。なお、患者には卵・牛乳アレルギーあり。	異常以外-23	
25	B-05000602	女性	3歳	50mg	ヒベンズ酸チベピジン 塩酸シプロヘプタジン フマル酸ゲトチフェン カルボシステイン ラクタミン	意識変容状態	回復	アトピー性皮膚炎、食物アレルギー等の既往あり。日本脳炎ワクチン接種の翌日38.9℃の発熱、迅速検査でインフルエンザB型と診断されリン酸オセルタミビル投与。本剤服用開始4日後の夜突然転倒し、約10秒間意識消失、約10分間顔色不良、その後意識回復し、清明。その後2日間投与を継続したが異常なし。心電図、血液、脳波、全能MRI検査を実施するも異常を認めず。	異常以外-24	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
26	B-05001648	女性	3歳	不明		譫妄(譫妄)	回復	インフルエンザ治療目的のため、リン酸オセルタミビル投与。1回分服用後、譫妄発現(重篤でないし軽微でもない)し、親の判断にて服用を中止。その後、譫妄回復。	異常以外-25	
27	B-05023472	男性	3歳	60mg	برانلカスト水和物 カルボシステイン プロピオン酸ベクロメタゾン クロモグリク酸ナトリウム ツロプテロール アミキシシリン アセトアミノフェン	譫妄 幻覚 眼瞼機能障害	回復	発熱(38.6℃)、咳、鼻症状、にて、本剤処方。服用後、まばたきが多くなる(体温:39.7℃)。2回目服用後、幻覚症状発現し、30分ごとぐらいに3回繰り返す。深夜、救急にて受診(体温:38.3℃)処置なし。翌朝、幻覚、異常なまばたき、うわごと回復。本剤中止。7日後、インフルエンザ回復	異常以外-26	
28	B-06006096	男性	3歳	不明		幻覚 妄想	回復 回復	A型インフルエンザで発熱(41℃)が見られ、リン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から約5時間後に幻覚及び妄想が発症し、約5分後に回復した。その後も幻覚及び妄想が見られた。	異常以外-27	
29	B-08026623	男性	3歳	27 mg		幻覚	回復	インフルエンザに対し、リン酸オセルタミビル27mg内服。遠くを見つめ、おぼけが出る等の症状を訴えたため、本剤中止。	異常以外-28	
30	B-07023545	男性	3歳	36 mg	カルボシステイン エストロゲン[結合型] 塩酸エブラジリン 塩酸シプロヘプタジン 酪酸菌製剤 ピフィズス菌製剤(4) ツロプテロール	異常行動	回復	インフルエンザA型の診断のため、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用1時間後、熱性痙攣発現。経過観察のため入院。痙攣収束後に意識の反応は認めるも、手足を興奮した様子で動かし、視線は何かを透視する様に動き、口をモグモグ動かしていた。発語を全く認めなかった。行動異常、発語障害発現。ジアゼパム坐薬使用し入眠。自然覚醒後、異常な行動は無く、発語も認め通常状態となった。		2007/10/1以降 新規報告
31	B-07025436	男性	3歳	2 mg/kg		異常行動 痙攣	回復 回復	朝、A型インフルエンザ確定後、リン酸オセルタミビル処方。一回目の服用約15分後、腹痛発現。その後、うわ言を言ったり、痙攣症状、足をバタバタさせるなどの異常行動を発現。昼、来院時には症状は回復していた。本剤投与中止。		2007/10/1以降 新規報告
32	B-07027837	女性	3歳	投与量不明	塩酸アンプロキシロール	痙攣	回復	インフルエンザB型治療のため、リン酸オセルタミビル処方。同日夜、本剤1回内服したとこと飲んだ直後に、10回にわたり痙攣(しびれ)を起こした。その後、10~15分後に嘔吐発現。本剤投与中止。本剤投与翌日、痙攣・嘔吐 回復。		2007/10/1以降 新規報告

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
33	B-02001232	女性	4歳	75mg	アモキシシリン ヒベンズ酸チペピジン カルボシステイン ピフィズ菌製剤	協調運動異常	回復	インフルエンザA型陽性であったが、熱性痙攣を起こしていたためリン酸オセルタミビルを投与開始。投与2日目、目が回る、フラフラするなどの失調症状発現。投与継続し、3日目朝には、症状みられないが、5回目投与後に失調症状発現。3時間経過後、失調症状軽快し、投与中止。	異常以外-29	
34	B-06015552	男性	4歳	60mg	ヒベンズ酸チペピジン フマル酸クレマスチン 維持液(3) コハク酸メチルプレドニゾンナトリウム トリクロホスナトリウム 抱水クロラール カルボシステイン	意識変容状態 痙攣	回復 回復	A型インフルエンザの治療のためにリン酸オセルタミビルの服用を開始した。服用開始から約1時間後に痙攣及び意識障害が発現。痙攣は3分程度で止まり、救急センター受診後にジアゼパム坐剤を服用し、意識障害も回復した。転院後、ぼーっとした様子が見られ、併用薬の使用も行っている。リン酸オセルタミビル服用開始から2日目以降もリン酸オセルタミビルを使用している。	異常以外-30	
35	B-06024209	女性	4歳	24mg		意識変容状態 筋骨格硬直 異常行動	回復 回復 回復	インフルエンザ発症時に発熱(39.4℃)、咳、倦怠感。リン酸オセルタミビルを服用2時間後、手のみ硬直した様子。ろれつが回らない様、赤ちゃん言葉の様なものを発していた。その約2時間後受診、意識は清明、麻痺なし、応答も明瞭。	異常以外-31	
36	B-06026808	女性	4歳	30 mg	カルボシステイン フマル酸クレマスチン 塩酸アンブロキシソール	異常行動	回復	服用後5時間、異常言動発現。再来院し、入院。脳波及びCT検査での異常はなし。	異常以外-32	
37	B-07000067	女性	4歳	60 mg	乳酸リンゲル液 アセトアミノフェン	痙攣	回復	リン酸オセルタミビル27mg服用後、暫くして痙攣。2回目から服用中止。翌日、痙攣軽快。	異常以外-33	
38	B-07000101	男性	4歳	72 mg	塩酸シプロヘパタジン ヒベンズ酸チペピジン セフォタキシムナトリウム ジアゼパム	痙攣 意識レベルの低下	不明 回復	深夜、発熱。翌朝、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル服用開始。本剤3回目服用後、けいれん(1分くらい)発現し、入院。丸1日意識レベル低下。けいれん、意識レベル低下(ともに非重篤)発現。翌日、熱が下がる。翌々日、本剤服用中止。服用中止1日後、ふらつき、頭痛あり。(意識レベルは正常)MRI異常なし。幻覚、視覚異常、ふらつき、傾眠発現。服用中止2日目、「あそこに何かいるから痛い」と言う異常行動発現。	異常以外-34	
39	B-07000152	女性	4歳	100mg		痙攣	回復	40.5℃の発熱と腹痛のため、母親同意の下、リン酸オセルタミビル処方。一回目の本剤服用約20分後、いびきをかいて寝ているような状態であったため、心配になって確認したところ、口から泡を吹いているような状態で、再受診。その際、顔は真っ青で、唇はチアノーゼがでていたとのこと。再受診の際は、目は開けているがぼんやりしており、両親の問いかけにも反応が悪かったとのこと。けいれんが見られており、抗けいれん薬などの処置により回復。	異常以外-35	
40	B-07000201	女性	4歳	66 mg	塩酸シプロヘパタジン ヒベンズ酸チペピジン 塩酸アンブロキシソール 塩酸ツロプロテロール	譫妄 間代性痙攣	回復 回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル服用開始。翌朝服用後、突然うわ言、痙攣発現。そのまま寝てしまう。夕方、回復し、本剤を服用すると再び同じ症状出現。嘔吐もあり。本剤服用中止。	異常以外-36	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
 (販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
41	B-07000243	男性	4歳	54 mg	テオフィリン ブランルカスト水和物 ツロプテロール アセトアミノフェン	異常行動 痙攣	回復 回復	インフルエンザB型と診断。リン酸オセルタミビル服用1時間後、突然笑い出す が、しばらくして消失。再度、本剤及び他薬剤を服用後、両眼球が左上向きにな り、口をバクバクして、呼びかけにも応じず、唇の色が悪くなったので、指を口の 中へ入れて吐かせる等の対応をした。	異常以外- 37	
42	B-07000285	女性	4歳	36 mg	セフトリアキソンナトリウム	痙攣	回復	インフルエンザの疑いの為、リン酸オセルタミビル投与開始。熱性痙攣発現。 インフルエンザは陰性。熱性痙攣回復。	異常以外- 38	
43	B-07001669	女性	4歳	60 mg		痙攣	軽快	インフルエンザB型に対して、リン酸オセルタミビル5日分処方。同日朝、38.5℃。 本剤1回目服用。同日昼、39.4℃。同日夜、2回目服用30分後、全身痙攣5分間。 意識有り、やや軽い痙攣。服用1時間半後、39.5℃ 全身痙攣5分間、意識有り、 やや軽い痙攣。アセトアミノフェン坐剤を使用。服用2時間半後、39.2℃ 痙攣5分 間。服用3時間半後、38.4℃。痙攣5分間、意識有り。痙攣強。幻覚あり(ママの目 が真っ赤でこわいと言う)。服用6時間半後、36.2℃。痙攣2分間、幻覚あり。本剤 投与中止。 発熱翌日、痙攣回復	異常以外- 39	
44	B-07001747	女性	4歳	36 mg	ジヒドロコデイン・エフェドリン配合 剤 アセトアミノフェン	痙攣	回復	40℃近い発熱あり。インフルエンザB型陽性であったため、リン酸オセルタミビル 処方。同日夕方、本剤1回目服用。体温:39.6℃。意味不明なことを言い出すなど の意識障害、幻覚発現。服用2時間後、痙攣発現。救急車にて搬送。到着時は 意識ははっきりしていた。体温:39.4℃、解熱剤投与し、帰宅。帰宅後も頭痛、腹 痛、嘔吐あり。翌朝、痙攣、意識障害、幻覚回復。1回目服用から翌朝までの記 憶はなかった。	異常以外- 40	
45	B-07001807	女性	4歳	60 mg	ヒベンズ酸チベピジン カルボシステイン 塩酸シプロヘパタジン 非ピリン系感冒剤(2)	痙攣	回復	体温:38.5℃。インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。 服用開始3日目、インフルエンザの軽快・回復。深夜、すでに解熱。 服用開始4日目、計6回目服用後、30分くらいの発作あり。ひきつけなのか悪夢を みたのか不明。その後、就寝中にうなり声を聞いた。 その翌朝、ふだんと変わらず。	異常以外- 41	
46	B-07003187	女性	4歳	28.5mg	塩酸シプロヘパタジン ヒベンズ酸チベピジン セフロキサジン	痙攣 異常行動	回復 回復	インフルエンザの検査を行うが陰性のため、解熱剤、抗菌剤等処方。夕方、熱が 下がらないとのことで再度受診。体温40℃。検査はしなかったがインフルエンザ と判断し、リン酸オセルタミビル処方。夜、本剤服用。服用1時間以内にけいれ ん、うわ言、白目をむいた状態となる。けいれんに関してはそれほど長くあったわ けではないようだが、うわ言に関しては、若干長く言っていた様子。 翌日、症状回復。 なお、以前一度、本剤を服用したことがあったが、そのときは何もなかったとの こと。熱性けいれんは過去になし。	異常以外- 42	
47	B-07004082	女性	4歳	56 mg	酒石酸アリメマジン ヒベンズ酸チベピジン 塩酸プロカテロール 塩酸プロムヘキシン	恐怖 異常行動	回復 回復	インフルエンザA型との診断にてリン酸オセルタミビル処方。服用約2時間後、壁 を見て「こわい、こわい」と怯えるため再診して入院。インフルエンザの熱せん妄 の可能性もあり、入院しながら服用し、経過観察する方針で本剤28mg再投与。 再び2時間後、「こわい、こわい、虫がいる、やっつけて」と15分間怯えため、本 剤中止。30分後、意識清明。(熱は39℃あった)	異常以外- 43	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表No	備考
48	B-07010110	男性	4歳	60mg	アセトアミノフェン	異常行動	回復	B型インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル処方。夕方より服用開始。受診時、発熱はそれほどでもなかった(36~37°C)。夜、異常行動(夜中暴れる)発現。服用2日目、異常行動回復。服用5日目、朝、服用後、本剤終了。	異常以外-44	
49	B-01012114	男性	5歳	75mg	テオフィリン 塩酸セフカペンピボキシル ヒベンズ酸チペピジン ツロプテロール	幻覚 恐怖	回復	体温39.1°C)、インフルエンザ疑いでリン酸オセルタミビル服用。約2時間後、急に目を開き、タオルを取ろうとするもうまく取れないといい泣き叫ぶ。この時心拍亢進2+。約5分後、症状消失。症状消失から5時間後、再度本剤投与。その1時間半後、突然目を開き、意味不明のことを口走り、泣き、叫ぶ様な状況が何度か繰り返される。約5分後、症状消失。翌日、解熱	異常以外-45	
50	B-02000734	女性	5歳	75mg	塩酸トリメキノール セフジニル 塩酸プロムヘキシシ	構語障害 意識レベルの低下 感覚鈍磨	回復	発熱、咳嗽のためセフジニル、塩酸トリメキノール、塩酸プロムヘキシシ内服。翌日A型インフルエンザとの診断でリン酸オセルタミビル投与開始、これまでの薬剤は中止となる。本剤服用1時間後より手の震え、意識減損、言語障害発現し受診。経過観察目的にて入院。本剤中止し塩酸アマタジンに変更となる。翌日、解熱し言語も可能となり、意識レベルもクリアとなった。	異常以外-46	
51	B-03000276	男性	5歳	90mg	アセトアミノフェン ドンペリドン ピフィズス菌製剤	坐骨神経痛	回復	B型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル90mg/日を投与開始。投与開始後3日目に両側下腿痛発現。翌日より本剤投与中止。有害事象発現8日目、回復。	異常以外-47	
52	B-04027244	男性	5歳	60mg	なし	浮動性めまい	回復	インフルエンザ治療のため、リン酸オセルタミビル60mg/日を投与開始。夕食後服用、寝る前にふらつき(錐体外路障害の様子)が見られたため、リン酸オセルタミビルの服用中止。翌日有害事象改善。	異常以外-48	
53	B-04027262	女性	5歳	不明	なし	痙攣 呼吸停止	不明	インフルエンザ治療のため、投与量不明のリン酸オセルタミビル投与開始。本剤服用2-3時間後痙攣発現、呼吸停止。(再々にわたり詳細調査を依頼したが担当医の協力が得られず、これ以外の詳細不明)	異常以外-49	
54	B-05000047	男性	5歳	36mg	塩酸プロカテロール フマル酸ケチフェン カルボシステイン	意識変容状態	回復	A型インフルエンザ確定診断後、リン酸オセルタミビル36mg/日を投与開始。投与1回目10秒後、嘔吐と一過性の意識障害(数秒間)が発現。すぐに回復。入院して経過観察するが、以後有害事象の発現なし。	異常以外-50	
55	B-05004406	女性	5歳	32.5mg	d-マレイン酸クオルフェニラミン ヒベンズ酸チペピジン アセトアミノフェン	痙攣(無熱性 痙攣)	回復	頭痛、咽頭痛有り受診。治療目的としてリン酸オセルタミビル投与。本剤服用翌日、顔面蒼白、全身の強直性痙攣約1分が見られた後、覚醒し頭痛を訴えた。救急外来受診、本剤投与中止。翌日、解熱のため無投薬で経過観察。3日後、インフルエンザ回復。	異常以外-51	

異常な行動が記録されている事例以外の精神神経系症状事例の概要(年齢順)
(販売開始(平成13年12月)から平成20年3月31日まで)

No.	識別番号	性	年齢	一日用量	併用薬	副作用	転帰	経過の概要	前回公表 No	備考
56	B-05021995	男性	5歳	34mg	塩酸ソロブテロール ヒベンズ酸チペピジン フマル酸クレマスチン	痙攣	回復	1歳時に熱性痙攣の既往歴あり。 高熱、咳のため、確定診断後、本剤投与開始。 翌日、本剤投与5時間後、嘔吐、チアノーゼ、一点凝視が続き、救急車にて来院。頭部CT異常なし。 脳波棘波、左右差あり、てんかんと診断し入院となる。ジアゼパムを計3回使用。けいれん発作発現し、同日回復。 その後、退院。以後けいれんなし。	異常以外-52	
57	B-07000090	女性	5歳	70 mg	塩酸セフカペンピボキシル ヒベンズ酸チペピジン 塩酸シプロヘパタジン 塩酸アンブロキシソール 塩酸プロカテロール	異常行動	回復	リン酸オセルタミビル服用開始。 同日、「何か気分がいい」との異常言動が発現し、翌日回復するが、服用4日目まで、「何者かに追われている」との異常言動が発現。 服用4日目、本剤服用中止。中止翌日、異常言動回復。	異常以外-54	
58	B-07000110	男性	5歳	30 mg	塩酸セフカペンピボキシル 塩酸シプロヘパタジン アセトアミノフェン 耐性乳酸菌製剤(3) 塩酸アンブロキシソール	痙攣	回復	リン酸オセルタミビル服用当日夜、意識障害(重篤)、痙攣が発現。翌日、意識障害回復。	異常以外-55	
59	B-07000148	男性	5歳	100 mg	アセトアミノフェン	痙攣	回復	インフルエンザに対して、リン酸オセルタミビル投与開始。本剤投与終了2日後、意識障害、痙攣発現。同日、回復。	異常以外-56	
60	B-07000282	男性	5歳	39 mg	ヒベンズ酸チペピジン カルボシステイン 塩酸プロムヘキシン 塩化リゾチーム 塩酸アンブロキシソール アセトアミノフェン アセトアミノフェン	譫妄 幻覚	回復 不明	インフルエンザA型の診断にて、リン酸オセルタミビル処方。本剤服用30後、口をもぐもぐさせるような仕草あり。元気なし。せん妄状態発現。服用3時間30分後、覚醒してから多弁、興奮、幻覚あり。服用8時間30分後、入院。脱水傾向もあり。体温38.8℃。幻覚症状としては、さかんに手を伸ばして目の前のものをつかむ様な行動を就寝まで間歇的に認めた。深夜、興奮状態で多弁が続いていたが、自然に入眠。未明、再び自然に覚醒したが、この時には普段の状態へ回復。服用から2日目、昼、せん妄状態回復。インフルエンザ軽快。	異常以外-57	2007/10/1以降追加報告
61	B-07001738	男性	5歳	36 mg	セフジトレンピボキシル d-マレイン酸クロルフェニラミン トラネキサム酸 カルボシステイン フマル酸ケトチフェン メフェナム酸	異常行動	回復	39.0℃の高熱あり。インフルエンザウイルス検出されなかったが、インフルエンザ疑いのため、リン酸オセルタミビル処方。夕方、本剤服用30分後、踊ったり飛んだりしだす気分高揚が発現。経過観察。同日症状回復。本剤服用中止。	異常以外-58	